

奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

私らしいマイライフ

自修館中等教育学校 3年 前田 美空

人は皆、自分の「好き」を貫いて生きているだろうか。私は最近、そういうことを考えるようになった。SNSを見ていると、自分の「好き」を堂々と語ったり、それを行動に移したりする、いわゆる「推し活」などをしている人が多くいるが、その反面、誰かの目や言葉を気にして、「好き」を隠して生きている人の方が多いのではないだろうか。

正直に言うと、私もその一人だ。本当はこれが好きだと言いたいのに、変に思われそうで口に出せなかったり、自分が好きな系統の服を見つけても、「私には似合わないかな」「人に引かれないかな」と不安になって結局親に選んでもらったものを着てしまう。そんな風に、自分の「好き」に正直になれないことが、今まで何度もあった。

今の時代、自分の「好き」を貫くのは、決して簡単なことではない。私たちは、家族、友達、先生、近所の人、そしてSNSなどのネット上の全く知らない誰かなど、日々あらゆる人たちの意見や視線にさらされている。中には明るく自分の好きを応援してくれる肯定的な言葉もあるけれど、時には、心に刺さるような否定的な言葉を受けることもある。たとえば、ある女の子が自分のことを「僕」と呼んでいたとする。彼女にとってはそれが自然で、一番しっくりくる言い方だったのかもしれない。だけど、親から「女の子なんだから私って言いなさい」と注意されたとする。きっと、彼女は戸惑い、やがてそれに感化されて「私」と呼ぶようになるだろう。一見すると小さな出来事に見えるかもしれない。けれど、それはその子にとって、自分らしさを一つ失うことだったのではないか。

一人称だけではない。服装や髪型、好きな色、好きな音楽、趣味、将来の夢……。そういったものにも、「女の子らしく」「男の子なんだから」「それはあなたには変だよ」と言われることがある。私も、友達に好きなものを間接的に「あれってそこまで可愛くないよね」「バカらしいよね」と笑われたことがある。言った本人にとっては軽い気持ちで言った言葉だったのかもしれないが、その一言で私は人前で堂々とそれを好きだと言えなくなってしまった。今現在、確かに昔に比べれば社会全体が少しづつ多様性を認める方向に進んでいるのは事

実だと思う。しかし、それでもなお、「人と合わせないと」「人と違ってはいけない」という考え方や雰囲気は、私たちのまわりに今も強く残っているように感じる。それなら「無視すればいいじゃないか」「人の意見なんて気にせず、やりたいことをやればいい」と言われることもあるだろう。だが、それをすることは実はとても難しい。親に逆らうのは勇気がいるし、友達と違うことをするのは仲間外れにされるかもしれないし変な目で見られるかもしれない、そんな恐れから、一步を踏み出すことはとても難しいのだ。

だけど、それでも私は、自分の「好き」を貫きたいと思っている。その理由はとてもシンプルで「人の意見に振り回される人生より、自分の気持ちを大切にする人生を送りたい」からだ。私の人生は、親のものでも、友達のものでもなく、私自身のものである。そんなたった一つだけの大切な人生で、自分で自分の「好き」を否定し続けていたら、きっとどこかで後悔すると思う。

「これが好きだ」という思いは、自分にしかわからなく、自分だけの宝物のようなものだと思う。それを他人の何気ない一言で失ってしまうのは、あまりにももったいない。誰かに自分の「好き」を理解されなくても、自分自身で自分の「好き」を信じてあげることが、何よりも大切なことだ。

もちろん、すべてを貫くことは難しい。時には妥協も必要だし、誰かと合わせなければならない場面もあるだろう。その中でも、自分の「好き」を少しでも残せたら、それだけで十分価値があるものになる。たとえ小さな一步でも、自分で選び、自分で決めたという経験が、自分らしさにつながっていくだろう。これから的人生、自分の「好き」が何度も試される場面があるかもしれない。否定されたり、笑われたりすることもあるかもしれない。でも、それでも私は「自分はこれが好き」と胸を張って言える自分でいたい。たとえ周りの意見に流されそうになってしまっても、自分の心の声を聞き逃さないようにしたい。

たった一度きりの自分の人生、人の言葉に縛られず、全力で自分の「好き」を貫いて満足するものにしていきたい。